

【翻 訳】

『創世記（Liber Genesis）
新ブルガータ版（Nova Vulgata Editio）』邦訳（2）

足立清人	相原稔彦
五十川加津美	鎌田真由美
坂本桃子	杉山範子
平尾政幸	山田順子
山本義行	渡部沙耶

翻 訳

『創世記 (Liber Genesis)
新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (2)

足立清人	相原稔彦	五十川加津美	鎌田真由美
坂本桃子	杉山範子	平尾政幸	山田順子
	山本義行	渡部沙耶	

目次

- I. はじめに (解題)
- II. 『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳
(1章～3章 北星論集(文) 56巻1号43頁以下, 4章 本号, 以下 次号)

【翻訳にあたって】

「北星学園大学ラテン語文献講読会」²⁹⁹の『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』の邦訳である。

今回の翻訳は、主に相原稔彦さん、五十川加津美さん、山田順子さんと足立が担当した。また、2017年度のオープンユニバーシティの「ラテン語初・中級」講座を受講してくれた渡部沙耶さん(本学・経営情報学科卒業)が、2018年度から講読会に参加した。渡部さんには、邦訳全体と、バチカン版とクレメンティナ版との異同を全般的に確認していただいた。

翻訳の方針として、『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳(1)」で示したように、できる限りラテン語原文を忠実に翻訳し、また、各訳者の個性を尊重して、各訳者の翻訳の仕方や言葉遣いを必要以上に統一することはない。なお、人名については、共同訳聖

書実行委員会『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)に従った。

本邦訳は、あくまでラテン語の読解を目的としたものであり、創世記の内容を学問的に追究するものではない。もっとも、本邦訳全体についての責任は監訳者である足立が負う。

『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳(1)」では、見開きで左頁にラテン語、右頁に翻訳を掲載したが、今回から、ラテン語原文の下に翻訳を掲載することにした。

Ⅱ. 『創世記(Liber Genesis)新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳

4

1 Adam vero cognovit Evam³⁰⁰ uxorem suam, quae concepit et peperit Cain³⁰¹ dicens: “³⁰²Acquisivi virum per Dominum^{303,304} .

1 アダムは確かにエバを彼の妻として知るようになった。彼女はみごもり、カインを産んだ。そして、アダムは言った。「私は主によって一人の男子を得た」。

2 Rursusque peperit fratrem eius Abel. Et³⁰⁵ fuit Abel pastor ovium³⁰⁶ et Cain agricola.

2 彼女はさらに彼の弟アベルを産んだ。アベルは羊飼いとなり、カインは農夫となった。

3 Factum est autem post aliquot³⁰⁷ dies ut offerret Cain de fructibus agri³⁰⁸ munus³⁰⁹ Domino.

3 日がたって、カインは畑の収穫から贈り物を主に捧げた。

4 Abel quoque obtulit de primogenitis gregis sui³¹⁰ et de adipibus eorum.³¹¹ Et respexit Dominus ad Abel³¹² et ad munus³¹³ eius,³¹⁴

4 アベルもまた自分の羊の群れの初子たちの中から、しかも肥えたものの中から贈り物を主に捧げた。すると、主はアベルと彼からの贈り物には目を向けられたが、

5 ad Cain vero³¹⁵ et ad munus³¹⁶ illius³¹⁷ non respexit.³¹⁸ Iratusque est Cain vehementer, et concidit vultus eius.

5 カイン、さらに彼からの贈り物の方には目を向けられなかった。それでカインは烈しく怒って彼の表情が無くなった。

6 Dixitque Dominus ad eum: “³¹⁹Quare iratus es,³²⁰ et cur concidit facies tua?

6 主は彼に向かって言われた。「あなたはなぜ怒っているのか。なぜあなたの顔を伏せているのか。

7 Nonne si bene egeris, vultum attolles^{321?322} Sin autem male,³²³ in foribus peccatum insidiabitur^{324 325} et³²⁶ ad³²⁷ te erit appetitus eius, tu autem³²⁸ dominaberis illius³²⁹ .

7 正しい行いをしたのなら顔を上げるのではないか。しかし悪い行いをしたのなら戸口に罪が待ち伏せている。そして罪があなたを得ようとしてあなたに手を伸ばしてくるが、あなたはそれを支配するのです」。

8 Dixitque Cain ad Abel fratrem suum: “³³⁰Egrediamur foras³³¹ . Cumque essent in agro, consurrexit Cain adversus Abel fratrem suum³³² et interfecit eum.

8 カインは彼の弟アベルに言った。「戸外に行こうではないか」。そして彼らが耕地に来た時、カインは弟のアベルに立ち向かって、彼を殺した。

9 Et ait Dominus ad Cain: “³³³Ubi est Abel frater tuus?”³³⁴. Qui respondit: “³³⁵Nescio. Num custos fratris mei sum ego?”³³⁶.

9 すると主はカインに言った。「あなたの弟であるアベルはどこにいるのだ」。彼は答えた。「知りません。この私は弟の見張り人なのでしょうか」。

10 Dixitque ad eum: “³³⁷Quid fecisti? Vox sanguinis fratris tui clamat ad me de agro”³³⁸.

10 主はカインに言った。「あなたは何をしたのだ。あなたの弟の血の声が大いから私に叫んでいるぞ」。

11 Nunc igitur maledictus eris procul ab agro³³⁹, qui³⁴⁰ aperuit os suum³⁴¹ et suscepit sanguinem fratris tui de manu tua!³⁴²

11 それゆえ、今やあなたはどこでも地から誹謗されるだろう。地はその口を開いて、あなたの手からあなたの弟の血を受けた。

12 Cum operatus fueris eum³⁴³, amplius³⁴⁴ non dabit tibi fructus suos; vagus et profugus eris super terram”³⁴⁵.

12 たとえ、あなたが骨折っても、もうこれ以上地はその収穫物をあなたに与えない。あなたは、地の上をさまよい、放浪するであろう」。

13 Dixitque Cain ad Dominum: “³⁴⁶Maiores est poena³⁴⁷ mea³⁴⁸ quam ut portem eam”³⁴⁹.

13 カインは主に言った。「私の罰は、あまりにも重いので堪えられない」。

14 Ecce eicis me hodie a facie agri³⁵⁰, et a facie tua abscondar³⁵¹ et ero vagus et profugus in terra; omnis igitur, qui invenerit me, occidet me”³⁵².

14 見よ、あなたは今、私をその地から追放し、私はあなたの面前から隠され、私は、その地にさまよい放浪するであろう。それゆえに、私と出くわした者がすべて、私を殺すだろう」。

15 Dixitque ei Dominus: “³⁵³Nequaquam ita fiet,³⁵⁴ sed omnis qui occiderit Cain, septuplum punietur!”³⁵⁵”³⁵⁶. Posuitque Dominus Cain signum, ut non eum interficeret omnis qui invenisset eum.

15 主は彼に言われた。「そのようにはならない。そればかりか、カインを殺すものはすべて7倍罰せられるであろう」。そこで主はカインにしるしを付けられた。彼をみつけたものすべてが彼を殺すことのないように。

16 Egressusque Cain a facie Domini³⁵⁷ habitavit³⁵⁸ in terra Nod³⁵⁹ ad orientalem plagam Eden.

16 そしてカインは主の^{おもて}面から去り、エデンの東ノドの地に住んだ。

17 Cognovit autem Cain uxorem suam, quae concepit et peperit Henocho.³⁶⁰ Et aedificavit civitatem³⁶¹ vocavitque nomen eius ex nomine filii sui³⁶² Henocho.

17 その後、カインは妻を知った。彼女はみごもりエノクを生んだ。そして、彼は集落を造りその名前を自分の息子の名前であるエノクにちなんで名づけた。

18 Porro Henoch genuit Irad, et Irad genuit Maviael, et Maviael genuit Mathusael, et Mathusael genuit Lamech.

18 次にエノクがイラドを生み、イラドがメフヤエルを生み、メフヤエルがメトシャエルを生み、メトシャエルはレメクを生んだ。

19 Qui accepit uxores duas: nomen uni Ada³⁶³ et nomen alteri Sella.

19 彼はふたりの妻をめとった。ひとりの名はアダ、もうひとりの名はツイラであった。

20 Genuitque Ada Iabel, qui fuit pater habitantium in tentoriis³⁶⁴ atque pastorum.

20 アダはヤバルを生んだ。彼は、天幕に住む者、そして羊飼いの祖となった。

21 Et nomen fratris eius Iubal; ipse fuit pater omnium³⁶⁵ canentium cithara et organo.

21 そして、彼の弟の名は、ユバルであった。まさに彼が、豎琴などの楽器を演奏するすべての者の祖であった。

22 Sella quoque genuit Tubalcain, qui fuit malleator et faber in cuncta opera aeris et ferri. Soror vero Tubalcain Noema.

22 ツィラもトバル・カインを生んだ。彼が、青銅と鉄のあらゆる仕事の鍛冶屋であり職人であった。トバル・カインの妹はナアマであった。

23 Dixitque Lamech uxoris suis: ³⁶⁶“³⁶⁷Ada et Sella^{368, 369}, audite vocem meam,³⁷⁰ uxores Lamech, auscultate sermonem meum: ³⁷¹occidi virum pro vulnere meo^{372, 373} et adulescentulum pro livore meo^{374, 375}”.

23 そしてレメクは彼の妻たちに言った。「アダとツイラよ、聞け私の声を。レメクの妻たちよ、耳を傾けよ、わたしの言葉に。わたしに傷を負わせたから、私は男を打ち殺し、わたしに青あざを負わせたから、若者を打ち殺したのだ。

24 septuplum ultio dabitur de Cain, ³⁷⁶de Lamech vero septuagies septies³⁷⁷.

24 カインに関して7倍の復讐が与えられるだろう。さらにレメクに関しては77倍。

25 Cognovit quoque³⁷⁸ Adam uxorem suam, et peperit filium³⁷⁹ vocavitque nomen eius Seth³⁸⁰ dicens: “³⁸¹Posuit mihi Deus semen aliud pro Abel, quem occidit Cain³⁸²”.

25 またアダムは彼の妻を知った。そして彼女は息子を産み、その名をセトと名付けて言った。「神は私に、カインが殺したアベルの代わりに別の子孫を据えられた」。

26 Sed et Seth natus est filius, quem vocavit Enos.³⁸³ Tunc coeperunt³⁸⁴ invocare nomen Domini.

26 さらにセトにも息子が生まれ、彼をエノシュと名づけた。その後、彼らは主という名前を呼び始めた。

(続)

- 299 「北星学園大学ラテン語文献講読会」については、『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳 (1) 北星論集 (文) 56巻 1号 43・44頁を参照。「北星学園大学ラテン語文献講読会」は、オープンユニバーシティのラテン語講座を修了した受講者と足立による自主的な勉強会である。
- 300 Vulgata Clementinaでは、「Hevam」になっている。
- 301 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 302 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 303 Vulgata Clementinaでは、「私は神によって一人の人を得た (posseidi hominem per Deum)」となっている。
- 304 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 305 Vulgata Clementinaでは、f u i t の後に、「autem」があり、「Et」はない。
- 306 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 307 Vulgata Clementinaでは、「multos」になっている。
- 308 Vulgata Clementinaでは、「地の (terrae)」になっている。
- 309 Vulgata Clementinaでは、「munera」になっている。
- 310 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 311 Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- 312 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 313 Vulgata Clementinaでは、「munera」になっている。
- 314 Vulgata Clementinaでは、「,」になっている。
- 315 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 316 Vulgata Clementinaでは、「munera」になっている。
- 317 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 318 Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- 319 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 320 Vulgata Clementinaでは、「?」になっている。
- 321 Vulgata Clementinaでは、「recipies」になっている。
- 322 Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- 323 Vulgata Clementinaでは、「直ぐに (statim)」がある。
- 324 Vulgata Clementinaでは、「やってくる (aderit)」になっている。
- 325 Vulgata Clementinaでは、「?」になっている。
- 326 Vulgata Clementinaでは、「sed」になっている。
- 327 Vulgata Clementinaでは、「sub」になっている。
- 328 Vulgata Clementinaでは、「tu」の前に、「et」があり、「autem」はない。
- 329 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 330 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 331 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 332 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 333 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 334 Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- 335 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 336 Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- 337 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 338 Vulgata Clementinaでは、「terra」になっている。
- 339 Vulgata Clementinaでは、「super terram」になっている。
- 340 Vulgata Clementinaでは、「quae」になっている。
- 341 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 342 Vulgata Clementinaでは、「,」になっている。
- 343 Vulgata Clementinaでは、「eam」になっている。
- 344 Vulgata Clementinaでは、「もうこれ以上 (amplius)」がない。
- 345 Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- 346 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 347 Vulgata Clementinaでは、「iniquitas」になっている。
- 348 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 349 Vulgata Clementinaでは、「容赦に値しない (veniam merere)」になっている。
- 350 Vulgata Clementinaでは、「terrae」になっている。
- 351 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 352 Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- 353 Vulgata Clementinaでは、「*“*」がない。
- 354 Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- 355 Vulgata Clementinaでは、「,」になっている。
- 356 Vulgata Clementinaでは、「”」がない。
- 357 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 358 Vulgata Clementinaでは、この後に、「profugus」がある。
- 359 Vulgata Clementinaでは、「Nod (ノド)」がない。
- 360 Vulgata Clementinaでは、「;」になっている。
- 361 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。
- 362 Vulgata Clementinaでは、「,」がある。

- 363 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 364 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 365 Vulgata Clementina では, 「ominium (すべての)」がない。
- 366 Vulgata Clementina では, 「:」がない。
- 367 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 368 Vulgata Clementina では, 「Adae et Sellae」になっている。
- 369 Vulgata Clementina では, 「:」になっている。
- 370 Vulgata Clementina では, 「,」になっている。
- 371 Vulgata Clementina では, 「quoniam」がある。
- 372 Vulgata Clementina では, 「in vulnus meum」になっている。
- 373 Vulgata Clementina では, 「,」になっている。
- 374 Vulgata Clementina では, 「in livorem meum」になっている。
- 375 Vulgata Clementina では, 「.」になっている。
- 376 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 377 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 378 Vulgata Clementina では, 「adhuc」が入っている。
- 379 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 380 Vulgata Clementina では, 「,」がある。
- 381 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 382 Vulgata Clementina では, 「"」がない。
- 383 Vulgata Clementina では, 「;」になっている。
- 384 Vulgata Clementina では, 「彼 (エノシユ) は…始めた (iste coepit)」になっている。